

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ浅草橋保育園
施設所在地	台東区柳橋2-5-3
法人名	株式会社クオリス

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「お米はどうやってつくられる？ー土づくりから始まる自然と生育の探索ー」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

・子どもたちは日常的に米を食べているが、その米がどのような自然環境の中で生育し、どのような過程を経て食べられるようになるのかを知る機会は少ない。そこで、土づくりから栽培、成長、収穫、脱穀、調理までの一連の過程を体験することで、植物の生長と自然環境との関係を実体験を通して理解し、自然への興味関心を育てることを目的として設定した。また、稲の生長過程を継続的に観察する中で生じる子ども自身の気づきや疑問を大切に、子ども同士の対話や保育者との関わりを通して考えを深めることで、主体的、対話的で深い学びへとつなげることをねらいとした。

### 2. 活動スケジュール

4月：米についての話、興味関心を持つ	1月：精米後の観察
5月：土づくり（バケツに水を入れ配合）	2月：五平餅づくり
6月：稲の苗植え	3月：一年の振り返り
7月～9月：水やり、生育観察	
9月～10月：案山子づくり、穂の形成、色の変化の観察	
10月：稲刈り、もみ取り	
10月～11月：麺棒による脱穀	
12月：お米屋での機械脱穀見学	

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・バケツ・土（赤玉土、黒土、鹿沼土）・稲の苗・水やり容器・瓶（もみ殻）・麺棒（脱穀用）案山子制作素材（布、棒、紐、マジック、など）・調理器具（炊飯器、容器など）・スピーカー（マイク）

#### 環境設定

・子どもたちが日常的に観察できるよう、屋上の見やすい、日当たりの良い場所にバケツ稲を設置した。子どもが自由に毎朝観察し、気づいたことを伝え合える環境を整えたまた、案山子を設置することで、自分たちの稲を守る意識が持てるようにした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・子どもたちは土づくりから稲の栽培に関わり、水やりや観察を継続して行った。生長に伴い、稲の色や形の変化に気づく姿が見られた。稲を守る方法について話し合う中で、「鳥に食べられないようにしたい」という思いから、案山子作りを行った。子どもたちは素材を選び、工夫して制作し、稲の近くに設置した。収穫後ももみ取りを行い、麺棒を使って脱穀を体験した。またお米やで機械による脱穀を見学し、様々な方法があることを知った。最後に五平餅づくりを行い、自分たちで育てたお米を食べる体験へとつなげていった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・「大きくなってきた」「色が変わった」「これがお米になるの?」「鳥に食べられないように守りたい」「自分たちのお米美味しい」

・生長や変化に気づき、自分たちで育てたことへの愛情を持つ姿が見られた。

(子ども同士のやりとり・保育者との関わり)

子どもは互いに気づいたことを伝え合い、「昨日より大きくなった」など生長を共有する姿が見られた。

保育者は「どうして変わったのかな」「どうしたら守れるかな」と問いかけることで、子ども自身が考え、試すことができるよう関わった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

土づくりから栽培、収穫、調理までの過程を体験することで、子どもたちはお米が自然の中で育ち、食べ物になるまでの流れを理解することができた。自ら関わることで、生長に気づき、守ろうとする意識や、食への関心が育まれた。

(保育者の気づき)

子どもが主体的に関わることで、自然への関心や理解が深まることを実感した。また、子どもの気づきを起点として活動を展開することで、探究が継続し、主体的、対話的で深い学びにつながる事を再確認した。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ浅草橋保育園
施設所在地	台東区柳橋2-5-3
法人名	株式会社クオリス

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の色の変化に気づき、探究し、表現する

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園は隅田川テラスに近い場所に位置しており、自然に触れることができる環境に恵まれている。散歩を通して川や植物などの自然に触れることができ、子どもたちは季節の変化や自然の色の違いに気づく機会がある。身近な自然との関わりを通して、子どもたちの興味、関心を引き出し、主体的な学びにつなげている。稲の生長による色の変化に気づいたことをきっかけに自然の色を探し、表現活動へと発展させることで、探究を深めたいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

4月：散歩先で春の自然に触れ、色への気づきを共有  
5月：土・苗・草花や葉の色の違いを観察し、比較する活動  
6月：公園での色探し  
7月：絵の具遊び、色を混ぜる体験  
8月：マーブリング体験、色の広がりや模様の発見  
9月：Tシャツ染め（色を選択し制作）  
10月：運動会で染めたTシャツを着用  
11月：秋の自然物の色観察、落ち葉の色比較  
12月：色の変化を写真で見て振り返り、再発見  
1月：冬の自然の色探し（空・影・木々の色）  
2月：作品を見比べ、言葉で表現する振り返り活動  
3月：一年のまとめ、探究の振り返り

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

(環境設定)

・自然に触れられる環境を活用し、公園で色探しを行った。また、園内でも自由に染色や表現ができる環境を整えた。

(準備した素材や道具)

・絵の具 ・アクリル絵の具 ・洗濯のり ・プラカップ ・画用紙 ・水 ・トレー  
・つまようじ ・スポット ・マーブリング駅 ・白いTシャツ ・染色用容器 ・スピーカー  
・アンプ

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・公園で自然物の色を観察し、色の違いに気づいた。その後、マーブリングやTシャツ染めを行い、色の変化や表現を楽しんだ。染めたTシャツは運動会で着用し、活動が生活の中で活用される経験となった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「同じ色でも違う」「きれいな色」「自分で作った」「凄い」「色々な色があるね」

・色への興味や関心が深まる姿が見られた。

(子ども同士・保育者との関わり)

・互いの作品を見て伝え合う姿が見られた。保育者は子どもの気づきを受け止め、試す機会ができた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

色の変化への気づきが、公園での色探しやマーブリング、Tシャツ染めなどの表現活動へと広がり、活動が生活や行事へとつながったことで、子どもたちの学びがより深く、実践を伴うものとなった。実践を通して、自然との直接的な関わりの中で、子どもが自ら気づき、考え、試し、共有するという探究の過程を支えることが、主体的・対話的で深い学びにつながることを実践した。今後も子どもの気づきを大切にし、環境を通して学びを支えていきたい。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	クオリスキッズ浅草橋保育園
施設所在地	台東区柳橋2-5-3
法人名	株式会社クオリス

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

数字・図形

～構成遊びを通した数学的思考の育ちと協働的な学びの探究～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では、子どもたちが日常生活の中で発見や気づきを楽しみながら学ぶことを大切にしています。散歩や戸外活動を多く取り入れている園の特色を生かし、身の回りの環境の中から「円、四角、三角」の形を探す活動を行いました。建物やビルの装飾、マンホール、いつも行っている公園など、街の中には様々な形があります。子どもたちが実際にを見つけることで、図形への興味や観察する力を育てたいと考え、このテーマを設定しました。

日常の遊びの中で、子どもたちはブロックやカプラを使いながら「いくつ?」「同じ形」「高くしたい」など、数量や形への関心を示していた。遊びを単発で終わらせるのではなく、数量(数える・比べる)図形(丸・四角・対称)空間(上・下・横・間隔)といった視点を意識しながら、継続的な探究活動として展開することとした。

## 2. 活動スケジュール

・週に1回、数字、図形に関する活動をした

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・カプラ・折り紙・ブロック・時計模型・数字カード・秒針・色画用紙・方眼紙
- ・少人数グループ編成
- ・十分な素材の量の確保
- ・広いスペース
- ・途中保存可能なスペース

安心して試行錯誤できる環境を整え、継続的に取り組める構成とした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

###### ①数字の構成

1～12までを円状に並べ、「どこが上?」「間は同じくらい?」と対話しながら配置。

###### ②構造の探究

崩れる経験から「土台が大事」「下を広くしよう」と気づく姿が見られた。

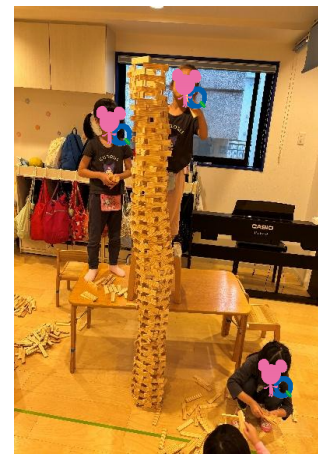
###### ③協働制作

役割を決め、相談しながら一つの作品を完成させた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・「ぴったりになった」・「こっちが長いよ」・「もう一回やってみる」
- ・真剣な表情で数を数える姿・崩れても挑戦する姿
- ・子ども同士では、「どう思う?」「手伝って」と自然な対話が生まれた。
- ・保育者は答えを示さず「なぜそう思ったの?」「他に方法あるかな?」と問い返すことで思考を深めた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・試行錯誤の時間が思考力を育てる
- ・対話が学びを深める
- ・環境構成が主体性を左右する
- ・完成よりも過程の共有が重要である

すくわくプログラムは、遊びを通して数学的感覚と協働性を育む有効な実践であることを実感した。